

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

6月17日～20日までの4日間、岩手県大船渡市を駆け巡りました。

大船渡市は陸前高田市や気仙沼市とともに三陸海岸南部の代表的な都市です。3・11の津波の最大波高(浸水高)は大船渡港茶屋前地区の商工会議所ビルで9.5mに達したといわれています。大船渡市の人的被害は死者320人・行方不明者140人、建物被害は住家全半壊3,629棟、一部損壊床上浸水件数は多数に上り、街のなかには取り壊すのか、手を入れて使用するのか、まだ手つかずの建物が多数ありました。今回の講師は、フルート竹山愛(賛助)クラリネット石井一成(賛助)トランペット橋本洋、菅家琴(賛助)、ホルン日橋辰朗、トロンボーン氏家史人(賛助)、チューバ柳生和大、打楽器遠藤功のみなさんでした。

第一中学・大船渡東高等学校・大船渡高等学校で吹奏楽部の指導



初日の17日は第一中学校。放課後の吹奏楽部のクリニック。生徒は35名。窓からは校庭に建てられた仮設住宅がビッシリ並んだ風景が、ここから通う生徒もいます。楽器の構え方や息のため方、吹き方など基本のレクチャーのほか、楽器の手入れの方法など、教わりました。ホルンの日橋君は初めての被災地。2人の女子生徒を相手に丁寧な指導をしていました。



大船渡2日目は午後から大船渡東高等学校。機械科や農業科など全校生徒500人を前に金管五重奏のコンサートの後、29名の吹奏楽部員に8名のプロのメンバーが加わり、合同演奏を行いました。演奏の劇的な変化に顧問の先生も校長先生も感激。男子生徒が多数の高校なのに、見事に部員は全員女子、生徒会長も副会長も女子でした。コンサート後は2時間のクリニック。短い時間でしたが、昨日と違うワタシを発見していました。



岩手めんこいテレビニュースで紹介されました。



この日は、岩手めんこいテレビ、岩手日報、東海新報が取材し、橋本さん(トランペット)が取材を受けました。事前に大船渡の状況をGoogle mapで調べ、被害状況をリサーチして来たそうです。また、日橋さんは大船渡東高校生徒会の取材も受けました。生徒会は岩手めんこいテレビと共同制作の番組を作るっているそうです。被災地の子どもたちの自主性を促すこういった取り組みはすばらしいです。取材される日橋君も高校生のようにでした。翌日のテレビニュースでこの日の模様が放送されました。

3日目は三陸町の「さんりくの園」(介護施設)で午前中、金管五重奏のコンサート。市内から30分ほど離れた三陸町越喜来地域は大きな被害が出たところ。「さんりくの園」は津波で入所者と職員58名が流されました。山側に新しい施設がつけられ、開所したばかり。地元の方も次々と来所され、100名を超える参加者でびっしりでした。



大船渡ユネスコ協会が大奮闘、リアスホールは700名の入場者



この日の夜は大船渡リアスホールで金管五重奏のコンサート。三陸の海をイメージしていて、ステージはリアス海岸の岩場、客席はブルーのグラデーションの波。海の香りが届きそうな雰囲気の良い会場でした。このホールは津波が来なかったエリアにあって、震災後は避難拠点の一つになりました。コーディネートしてくださった大船渡ユネスコ協会の奮闘で、平日なのに700名を超える参加者の入場でした。会場には、昨日まで指導した第一中学や東高校の吹奏楽部の生徒も最前列に駆けつけて、最後は手を振ってくれました。